

3

国語 読解演習と知識整理

中学につながる「言葉のきまり」

小学校では「言葉のきまり」として勉強していた「主語・述語」などの言葉のルール（文法）を、中学校ではさらにくわしく学習していくようになります。内容が細かくなつていきますが、基本になるのは小学校で学習してきた「言葉のきまり」です。今回の学習でおさらいをしながら、中学校での学習につなげていきましょう。

【1】主語・述語・くわしくする言葉（修飾語）

理解度をチェック！

【一】次の(1)～(5)の文の主語と述語はどれですか。それぞれ記号を書きなさい。

- (1) 姉が わたしの 耳もとで ささやいた。
 - (2) 机の 上に ノートが ある。
 - (3) 兄は とても 速い ホールを 投げる。
 - (4) 母に あげた プレゼントは ハンカチだ。
 - (5) 友達に 借りた 本は おもしろい。
- (1)主語 〓 述語 〓
- (2)主語 〓 述語 〓

【二】次の(1)～(5)の言葉は、どの言葉をくわしくしていますか。記号を書きなさい。

- (1) 遠くに 広い 海が 見える。
 - (2) ぼくは 弟の 話を 聞いた。
 - (3) わたしは 本を 一冊 買った。
 - (4) 弟は 母の 手を にぎった。
 - (5) あなたの 服は とても すてきだ。
- (1)主語 〓 述語 〓
- (2)主語 〓 述語 〓
- (3)主語 〓 述語 〓
- (4)主語 〓 述語 〓
- (5)主語 〓 述語 〓

三 次の(1)・(2)の文の []の部分にくわしくする言葉(修飾語)を

()の中から一つ選んで書きなさい。

(1) 昨日、[]みかんを食べました。

(すっばい・たくさん・いくつか)

(2) ぼくは、[]子犬を飼っています。

(家で・うさぎと・茶色い)

(1)

(2)

解説

一 こうした問題では、述語から考えていきます。(1)であれば、文

末の「ささやいた」が述語です。「ささやいた」のは「姉」ですね。

したがって、主語は「姉が」になります。

小学校の復習 〈主語と述語〉

主語と述語は、文の組み立ての中心となる言葉で、主語と述語だけを取り出しても文の意味が通じます。

主語…文の中で、「何が」「何が」にあたる言葉。

述語…文の中で、「どうする」「どんなだ」「何だ」「ある(ない)」にあたる言葉。

また、述語の種類によって、文の型を次の四種類に分けることができます。

◎何が(は) ↓どうする **例** 雨が しとしと 降る。

◎何が(は) ↓どんなだ **例** 今日は とても 暑い。

◎何が(は) ↓何だ **例** あれは 本物の 化石だ。

◎何が(は) ↓ある(ない)

例 むこうに ベンチが ある。

ふつうの文では、述語は末尾にあります。したがって、主語と述語を見つけたときは、まず文末に注目して述語を見つけ、それから、その述語に対応する主語を探すとよいでしょう。

▼ちよつと難しい問題に挑戦！

次の文から主語と述語をぬき出しなさい。

- ① ぼくの言葉を友だちさえ信じなかった。
- ② 駅には母も来る。

↓主語が「が」や「は」でない文です。まず述語を見つけ、その述語に対応する主語を考えれば、①主語||友だちさえ、述語||信じなかった、②主語||母も、述語||来る、とわかります。「ぼくの」「駅には」を主語と早とちりしないように注意しましょう。

- ② (1)の「広い」は「海が」をくわしくしています。「どんな『海』なのか」を表していますね。(3)のように、少しはなれたところにある言葉をくわしくしているときもあるので注意が必要です。「本を」は、「何を『買った』のか」を表しています。(5)の「とても」は「どのくらい『すてき』なのか」という「程度」を表しています。

- ③ 読んで意味がとれるだけでなく、「 」の部分でくわしくする言葉」を選ぶことに注意が必要です。(1)のには、「みかん」について、「どんな『みかん』なのか」を表す「すっぱい」が入ります。「たくさん」や「いくつか」を入れても文の意味はとありますが、これらは「みかん」ではなく、「食べました」という動作をくわしくする言葉です。(2)も同様に考えます。

小学校の復習 くわしくする言葉

文の基本は主語と述語ですが、そこにくわしく説明する言葉をつけ加えることで、文の意味がよりわかりやすくなります。

【例】 ぼくは 走った。

↓ぼくは 元気に 走った。(どのように走ったか。)

↓ぼくは 校庭を 走った。(どこを走ったか。)

↓ぼくは 今朝 走った。(いつ走ったか。)

▼中学校ではこう習い！

「くわしく説明する言葉」を修飾語、一方の「くわしく説明される言葉」を被修飾語といいます。「修飾」は「かざる」という意味であり、「被」は「くされる」という意味です。

右の【例】では、「元気に」「校庭を」「今朝」が修飾語で、「走った」が被修飾語です。

「元気に―走った」

「校庭を―走った」

「今朝―走った」

が、それぞれ組みになっていて、続けて読むと意味がとれます。修飾語が被修飾語よりも前にあることも確認しておきましょう。

解答

- | | | | | |
|---|----------|---------|----------|-------|
| ☐ | (1) 主語Ⅱア | 述語Ⅱエ | (2) 主語Ⅱウ | 述語Ⅱエ |
| ☐ | (3) 主語Ⅱア | 述語Ⅱオ | (4) 主語Ⅱウ | 述語Ⅱエ |
| ☐ | (5) 主語Ⅱウ | 述語Ⅱエ | | |
| ☐ | (1) イ | (2) イ | (3) ウ | (4) イ |
| ☐ | (1) すっぱい | (2) 茶色い | | (5) ウ |


 かけはしポイント

小学校で学習した「主語」「述語」「修飾語」が完全に理解できているという前提で、中学校ではさらに一歩進んだ「文の組み立て」を学習します。今回のような問題は、全問正解できるようにしておきましょう。